

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 203	福山市立城南中学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月13日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達の主体性や多様性を表現する場が設定されており、教職員のサポートが適切に行われている。 生徒自身が考え、決めて、選ぶことを大切にしていることが伝わる。 学校と家庭、地域と家庭のつながりに課題がある。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自ら考え、決めて、選ぶ」ことが多くの児童生徒に定着している。 知識・技能の定着に課題がある。 授業への姿勢や、家庭での過ごし方など、学習基盤になる部分の改善が求められる。 	<p>育成する資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己を認識する力 自分の人生を選択する力 表現する力
		<p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が打ち込めることを見つけ、目標に向かって一生懸命取り組む児童生徒 地域から学び、社会に貢献する児童生徒
		<p>中学校区として統一した取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領に立ち返り、知識・技能の定着にこだわった授業づくりを各学校で実践する。 総合的な学習の時間や、特別活動を中心として地域と協働した教育内容を実践する。

III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>自律 ～自ら考え、決めて、選ぶ～</p>

<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 86%の生徒が「考える、決める、選ぶ」ことを大切にしていると回答しており、昨年とほぼ数値が変わらず、定着している。 「学校生活の中で、自分の考えが認められている。」と回答する生徒の割合は90%で、自らを表現できる環境をつくることできている。 運動やスポーツが「嫌い・やや嫌い」と回答した生徒の割合は20%(前年度比-4%) 学校図書館を利用したことの無い生徒の割合は21%(前年度比-6%) <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業で考えるのは楽しいと肯定的に回答した生徒は75%。(前年度比+4%) 課題について自分の「ことば」で説明できていると回答した生徒は79%。(前年度比±0%)
--

<p>育成する資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己を認識する力 自分の人生を選択する力 表現する力 	<p>めざす子ども像</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教科の学習や行事、地域での学びや体験を通して、自分のよさや課題を理解し、地域や社会の中で成長しようとする生徒。 ○地域の人や社会の人の多様な生き方に学び、各教科の学習や行事での経験をもとに、自分で考え、将来や生き方を主体的に選択しようとする生徒。 ○地域や社会の課題に目を向け、各教科や行事での学びを生かして、自分の考えや思いを適切に表現し、社会に貢献しようとする生徒。
<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>学習基盤を整え、知識・技能の確実な定着を図る授業づくり</p> <p>内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学習基盤づくり」…授業と家庭学習をつなぐ学習習慣を育てるとともに、安心して学べる教室環境と学習規律を整える。 「めあてを明確にした授業づくり」…学習のねらいを明確にし、生徒が見通しをもって学習に取り組める授業を行う。 「学びを整理するまとめ・振り返り」…学習のまとめりごとに学びを整理し、自分の言葉で説明できる力を育てる。 	<p>めざす授業の姿</p> <p>生徒は</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習習慣や規律を身に付け、家庭学習での学びを活かしながら主体的に学習に取り組んでいる。 ○授業のめあてを理解し、達成に向けて見通しをもちながら課題に取り組んでいる。 ○学んだことを、自分の言葉で整理しながら表現している。

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
5	1 生徒自ら、成長するための 学び方を探究し、課題を乗り越えていこうとする力を育成する。	★	見直し	学習基盤を整え、家庭学習までを見通した授業を計画し、生徒の知識・技能の定着を図る。また、学びや経験を、自分の将来や社会に生かしていこうとする生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 学習規律を徹底し、学ぶ環境を整える。 「何ができるようになれば良いか」を明確にするとともに、家庭学習までを見通し、生徒が学びを実感できる授業設計を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 標準学力調査における正答率40%未満の生徒の割合を、市平均以下にする。 現状(市平均との差) 3年国…+6.8% 3年数…+4.9% 2年国…+16.7% 2年数…+7.3%								
			見直し	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間や、特別活動を中心として地域と協働した教育内容を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことや経験したことが、自分の将来や社会に役立つと回答する生徒の割合を80%以上にする。(現状：数値なし) 									
5	2 生徒一人一人の個性を大切に した教育活動を実践する。		継続	教職員と生徒の対話、生徒と生徒の対話、それぞれを大切にする。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が安心して個性や考えを表現できるような環境を提供する。 学習班での活動を充実させるためのエンカウンターを計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活の中で、自分の考えが認められていると回答する生徒の割合を増加させる。(現状：90%) 								

		継続		<ul style="list-style-type: none"> 週1回の「学びプロジェクト委員会」で個々の状況を協議し必要な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 新規長欠者の出現率を減少させる。(現状：3.5%) 									
2	3 生徒自ら、充実した学校生活になる取り組みを考え、実行する力を育成する	継続	健康促進、体力づくり、本を読む習慣の定着など、自分の心と身体の育成について生徒会執行部を中心に取組を考え実行する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と教師が共に委員会などの取組を計画し、実行する。 各委員会活動の意義を担任中心に生徒に丁寧に伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種委員会が計画する活動や取組に協力したり、参加したりしている生徒の割合を85%以上にする。(現状：79%) 									
5	4 対話を通して、元気・笑顔で勤務する教職員を育成する。	継続	主体的に新たなことにチャレンジしている教職員を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの職員の適性や能力にあった役割分担を行う。 教職員同士が「子どもの姿」を共有できる環境をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「仕事にやりがいを感じる」と回答する職員の割合を増加させる。(現状：88%) 									

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。